

過去の災害から学ぶ

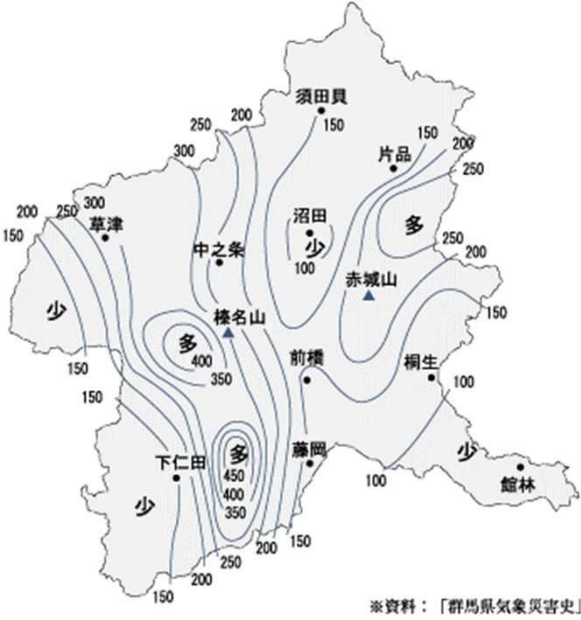
この地域の過去の災害 ～昭和10年の大水害～

◆昭和10年（1935年）9月24日、九州宮崎付近にあった台風が突然北東に進路を変え、台風と副低気圧による前線が上信地方に豪雨をもたらしました。24・25日の2日間の降水量は三ノ倉（旧倉沢村）で402.5ミリ、安中で314.3ミリに達し、豪雨は10時間余りも降り続けました。このため、烏川の上流域と碓氷川支流の九十九川流域で山津波（土石流）が発生、当時の群馬郡で40人、碓氷郡で83人もの死者が出るという惨事が起こりました。

群馬県の被害

人的被害			家屋被害				
死者	負傷者	行方不明者	全壊	流出	半壊	床上浸水	床下浸水
218名	190名	39名	467戸	859戸	460戸	4,011戸	13,320戸

雨量の分布



高崎市聖石町付近



高崎市



高崎市聖石橋から石原町方面

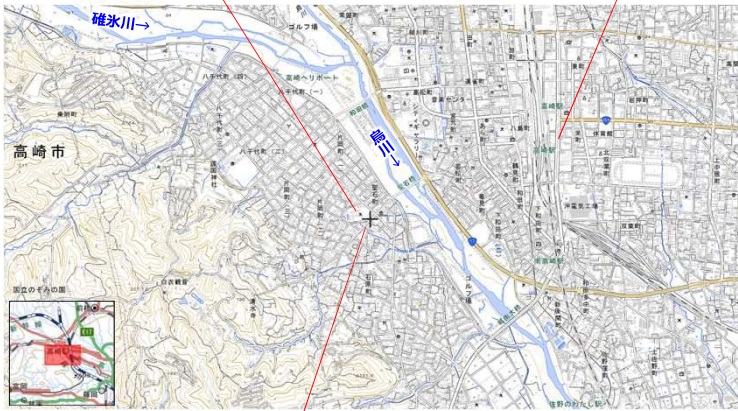


昭和10年の大水害の記録 ～七士殉職供養塔～

◆大水害の際、救護活動中の陸軍歩兵第十五連隊兵士7人が殉職するという悲劇が起こりました。7人はいずれも県内出身者で22歳から23歳の若い兵士たちでした。片岡小学校の南わきに建っている「七士殉職供養塔」には、殉職したときの様子が刻まれています。

片岡小学校

高崎駅



七士殉職供養塔



七士殉職供養塔

昭和十年九月二十六日未明陸軍歩兵伍長神沢仙八君、同登坂品造君、歩兵上等兵小川哲次郎君、同湯本清六君、同岸孫三郎君、同寺井佐五郎君、同野口富次君、烏川水災救援ノ任ニ殉ス。連日ノ荒天二十五日ニ至ルヤ颶風ノ氣ヲ帯ヒ尽日豪雨止マス、烏碓氷ノ両川氾濫シ濁流沿岸ノ街衢ニ侵入シ夜半ニ至リ未曾有ノ奔流ハ益々増水シテ救援ニ奔走スルモ慘禍相次イテ起ル是ニ於テ歩兵第十五連隊ハ更ニ増援隊ヲ派遣ス、乃チ神沢伍長以下勇躍難ニ赴キ最モ危険ニ瀕セル聖石方面ニ向フ濁流既ニ膝ヲ没スルモ屈セス身ヲ挺シテ進ミ聖石部落ヲ過キリ將ニ所命ノ地ニ至ラントスルヤ上流練兵場附近ノ堤塘突如トシテ決壊シ宛然海嘯ノ如キ怒濤此ノ一隊ヲ襲フ、時夜陰ニシテ事亦狡然タリ誰カ克ク之ヲ事前ニ知り之ヲ事後ニ避クヘケンヤ、戦友相共ニ手ヲ携ヘ激流ト戦フニ及ハス遂ニ離散シテ濁流ニ吞マレ雄姿復帰ルナシ呼悲シイ哉。夫レ命ノ下ル所水火モ尚辞セサルハ即チ軍人ノ本分ニシテ七勇士ハ実ニ身ヲ以テ其ノ本分ヲ完ウセルモノ其ノ責任觀念ノ旺盛ニシテ犠牲的精神ノ崇高ナル独リ戦友將兵ヲ感奮セシムルノミナラス郷党巷閭亦洽ク其ノ遺烈ヲ讃フ、乃チ茲ニ高崎市民相諮リ地ヲ択シ碑ヲ建テ其ノ事蹟ヲ記シ長ヘニ後昆ヲシテ知ル所ナラシメ以テ七勇士ノ英靈ヲ弔フ。

歩兵第十五連隊長中井良太郎撰文

源督大俊書

昭和十年十一月二十六日建之

高崎市民一同

請負人徳田鹿蔵

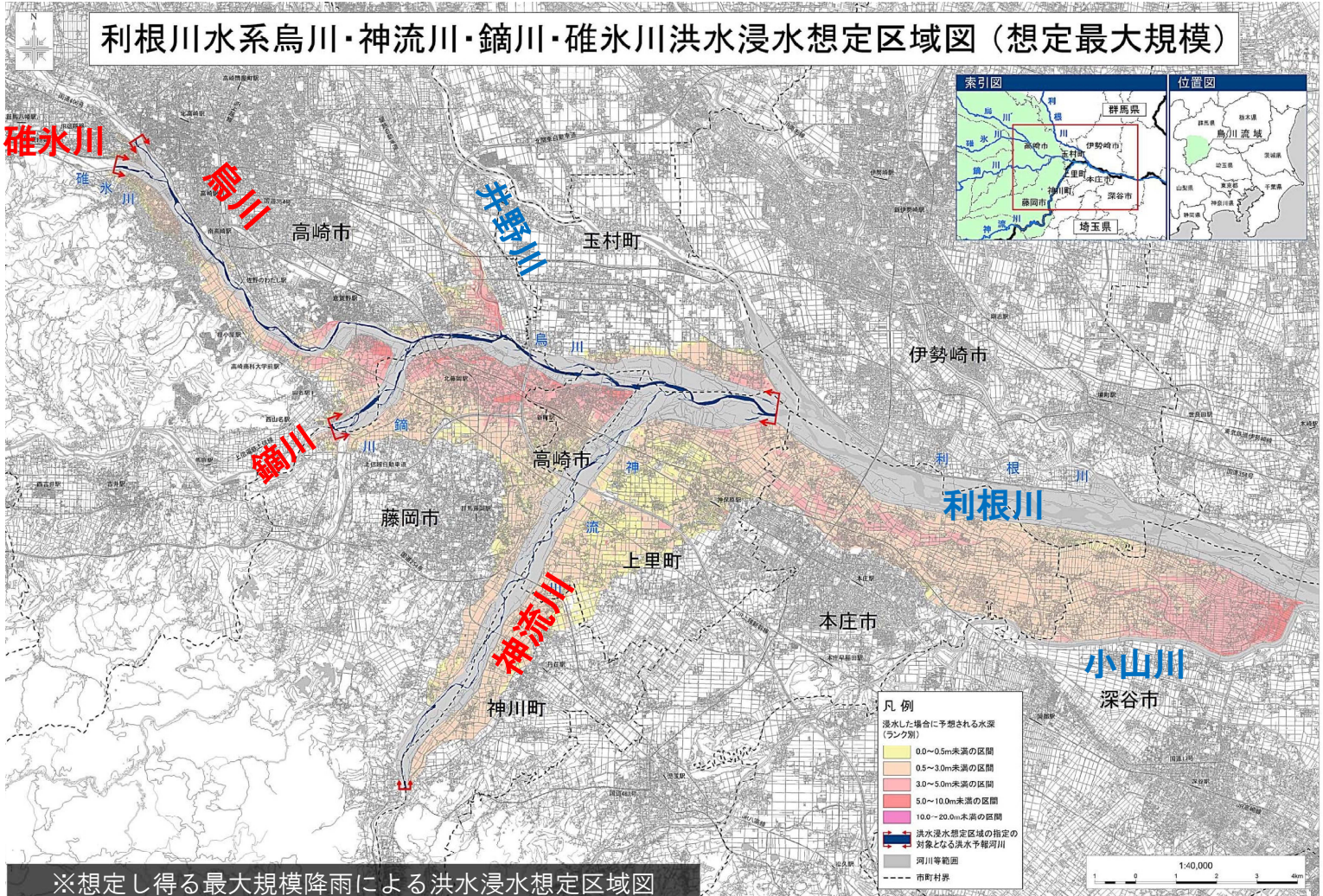
石工下平栄次郎

供養塔に刻まれている文章

あなたの家は大丈夫？

水害のリスクを知る ～洪水浸水想定区域図～

◆国土交通省では洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保、または浸水を防止することにより、水害による被害の軽減を図る取組をしています。洪水時の被害を最小限にするためには、平時より水害リスクを認識した上で、氾濫時の危険箇所や避難場所についての正確な情報を知ることが重要です。取組としては、浸水が予想される区域を洪水浸水想定区域として指定しています。浸水想定区域は、想定し得る最大規模の降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が予想される区域を示しています。



洪水時あなたの家は大丈夫？

◆国土交通省が提供する「地点別浸水シミュレーション検索システム」（浸水ナビ）を使うことで、堤防が決壊（破堤）した場合、あなたの家がどのくらい浸水するのか、何時間で浸水が始まるのか、何日で水が引くのか、などをイメージすることができます。また、河川が危険な水位に達していないか、など情報収集にも利用できます。

- ①地点別浸水シミュレーション検索システムへアクセス（「浸水ナビ」検索で簡単に検索）
- ②「地点別浸水シミュレーション検索システムを見る」をクリック



- ③「座標または地図上で指定」左の○をクリック後、○をクリック
- ④地図上で知りたい場所をクリック（例：烏川・鍬川合流点付近）



- ⑤最大浸水をもたらす破堤点が赤丸●で示されます。
- ⑥その赤丸をクリックすると、その地点の堤防が決壊したときの浸水想定区域が表示されます。



- ⑦表示された浸水想定区域は、アニメーションボタンにより、浸水の広がり方や水の引き方を見ることが出来ます
- ⑧グラフボタンにより、指定した場所の「浸水開始時間」や「最大浸水深」など、さまざまな情報を見ることが出来ます。



グラフボタンをクリック



【あなたの町のハザードマップ】

◆国土交通省が提供する「ハザードマップポータルサイト」を利用することで、各市町村のハザードマップに簡単にアクセスすることができます。



わがまちハザードマップ



調べたい地域のハザードマップに簡単にアクセス可能

タイムラインを活用してもしものときに備えよう！

パネル3

タイムラインとは

【タイムライン（防災行動計画）】

◆災害の発生を前提に、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況をあらかじめ想定し共有した上で、「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動とその実施主体を時系列で整理した計画です。



タイムラインによる防災機関の連携



タイムラインの活用事例

【世界における活用事例～ハリケーン・サンディ～】

◆ハリケーン・サンディは2012年10月にニューヨーク都市圏を襲い、壊滅的な被害をもたらしました。しかしタイムラインに基づく早めの避難や浸水対策などの防災行動により、都市の中核機能や水没した地下鉄等の都市機能の回復は迅速でした。被災7時間後にはバス運行の再開による地下鉄の代替輸送が開始され、地下鉄は1週間後には57%、9日後には97%で運行が再開されました。

TIME LINE (タイムライン)	ACTIVITY (防災行動)	
H-120 (上陸120時間前)	LEVEL2 態勢、3,4 への準備	
H-96	避難所の計画・準備	
H-96	避難の計画・準備	
H-72	緊急事態宣言	
H-72	LEVEL3 態勢	
H-48	自治体・州の避難所準備	
H-48	通行規制の計画・準備	
H-36	避難指示	
H-36	避難所開設	
H-36	交通規制開始	
H-12	公共交通機関停止	
H-24	LEVEL4 態勢	
H-12	その場での避難の指示	
H-3	交通規制終了	
H-0	対応者退避	

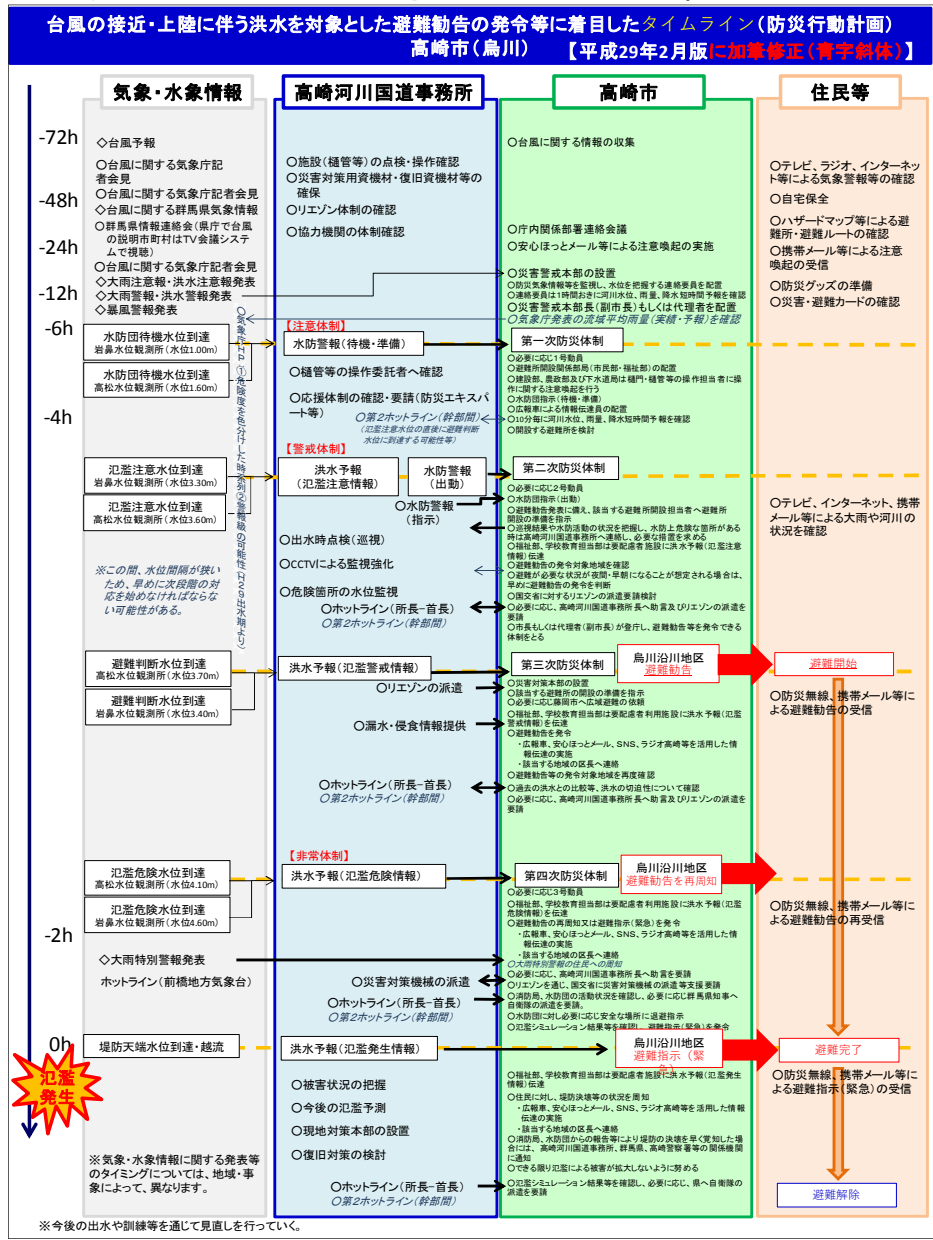
【日本における活用事例～荒川下流部～】

◆2014年8月より全国に先駆けて検討を始め、2015年5月に「荒川下流タイムライン」を公表、運用を開始しました。その後も毎年襲来する台風を対象に運用した結果を踏まえて、振り返りや見直しを行っています。



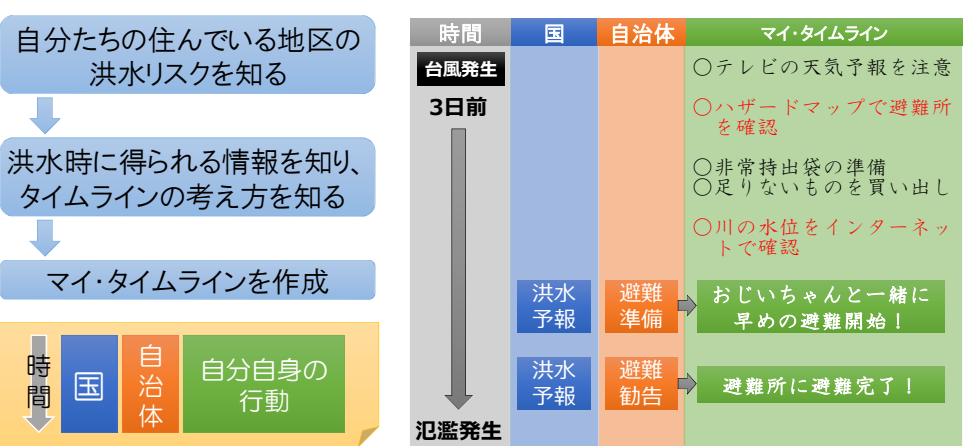
鳥・神流川流域のタイムライン

◆鳥・神流川の洪水氾濫を対象としたタイムラインを策定しています。



マイ・タイムライン

◆自分の環境（住まい、家族構成など）に合ったタイムラインにより、避難に必要な情報・判断・行動を整理した「自分の逃げ方」（マイ・タイムライン）を手に入れることで、もしものときに備えましょう。



避難につながる情報を把握しよう！

パネル4

河川情報等を把握して避難行動に活用しよう

◆国土交通省や気象庁では、避難に役立つ河川情報等を公表しています。例えば、河川の画像データが閲覧できます。それにより河川の状況が直感的に把握でき、川を見に行くなどの危険な行動を回避することができます。また流域の雨量や河川水位の観測データ、洪水予報を活用することで氾濫の危険性が把握できます。これらの情報は自主的な避難判断などの主体的な避難行動に活用できます。

◆河川情報等はテレビ、ラジオ、インターネットなど、さまざまな方法により確認できます。

【川の防災情報による河川情報の把握】

◆国土交通省が提供する「川の防災情報」Webサイトでは、河川の画像データや流域の雨量および河川水位の観測データ、河川の洪水予報などが確認できます。



【テレビによる河川情報の把握】

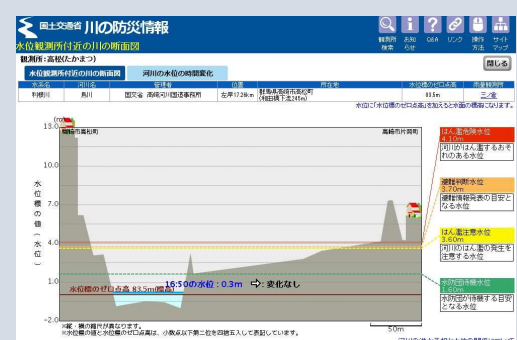
◆地上デジタル放送（データ放送）において、河川の水位や周辺の雨量がわかりやすく確認できます。



河川情報の一例



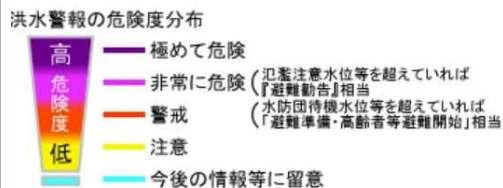
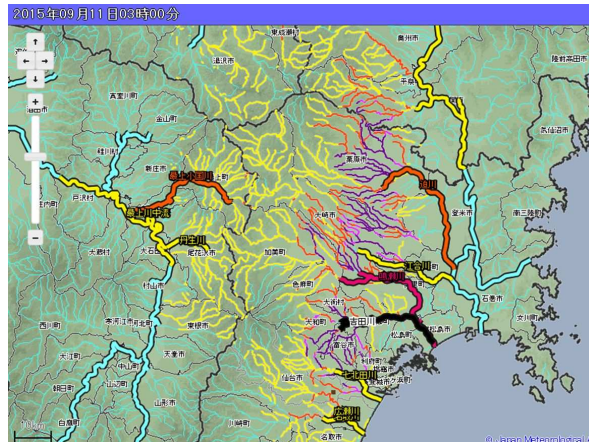
画像データ（CCTV）



河川の水位や洪水予報

【洪水警報の危険度分布の把握】

◆気象庁のWebサイトでは、国や都道府県の管理する大きな河川に加えて、中小河川の洪水害発生の危険度の高まりの予測を表示しています。河川のどこで危険度が高まっているかを地図上で確認できます。



【緊急速報メールによる洪水情報の把握】

◆スマホや携帯電話に緊急速報メールが届くことにより、お出かけ中などでも、洪水情報（氾濫の恐れや氾濫したこと）が確認できます。



洪水情報のプッシュ型配信イメージ

●配信内容例

【件名（例）】河川氾濫のおそれ
【本文（例）】烏川で氾濫の恐れ
烏川の高松（高崎市）付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。堤防が壊れるなどにより浸水のおそれがあります。
防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください。
本通知は、関東地方整備局より浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺においても受信する場合があります。

雨の強さを知ろう

高崎河川国道事務所が烏・神流川流域で観測した雨のうち、一番多かった1時間雨量は、1970年8月5日22時から23時に高崎雨量観測所（高崎市高松町）で観測した108.5mmです。

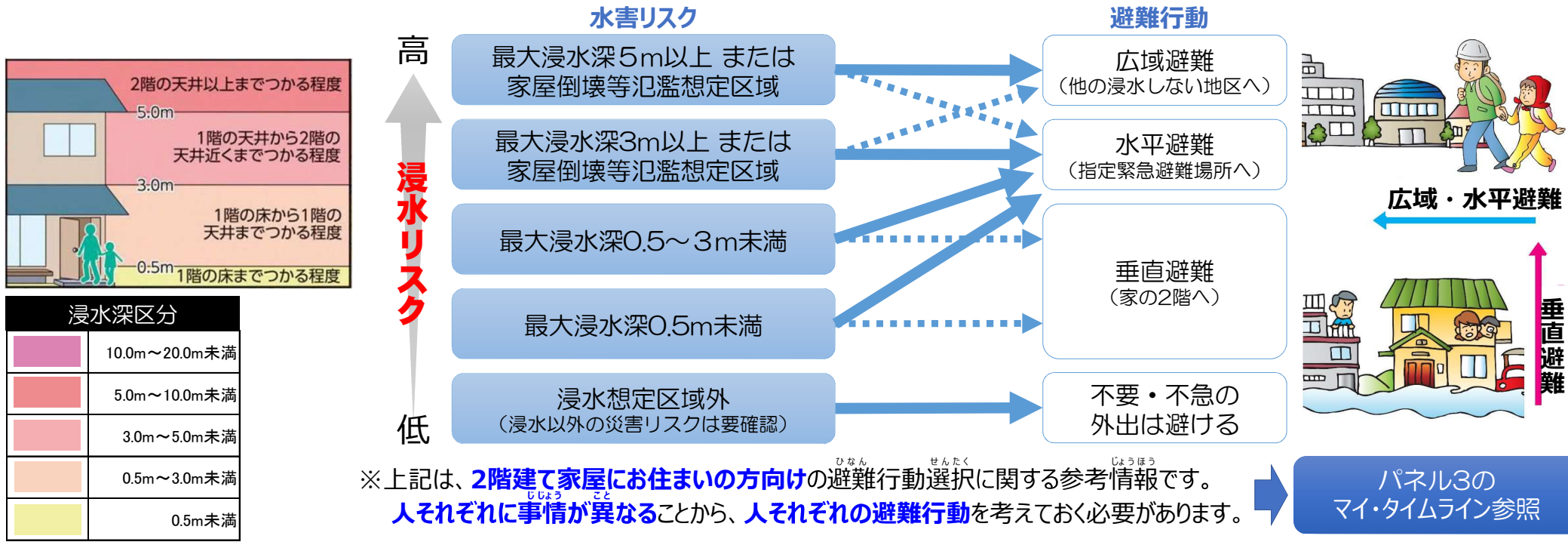
1時間雨量	10～20mm未満	20～30mm未満	30～50mm未満	50～80mm未満	80mm～
雨の強さ (予報用語) イメージ	やや強い雨 ザーザー	強い雨 土砂降り	激しい雨 バケツをひっくり返したよう	非常に激しい雨 滝のように（ゴーゴーと降り続く）	猛烈な雨 息苦しくなるような圧迫感。恐怖を感じる
影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	地面一面に水たまりができる	ワイパーを速くしても見づらい	道路が川のようになる	雨による大規模災害のおそれ

はや ひなん 早めに避難しよう！

適切に避難判断をしよう

【リスクに応じた避難方法】

◆避難には、「広域避難」、「水平避難（立退き避難）」、「垂直避難」などの種類があります。
「今いるところ」や「よくいるところ」の**水害リスク**を洪水浸水想定区域図やハザードマップ等で把握し、リスクに応じた**避難行動**を心がけましょう。



【避難のきっかけとなる情報・状況】

◆災害が発生し、住民に危険が及ぶと考えられるとき、自治体は気象庁や国土交通省の提供するデータ等にもとづいて、**避難情報**を発令します。避難情報に従って避難してください。
◆発令されていなくても、**自分のいる場所で身の危険を感じる場合は**、早めに安全な場所へ移動しましょう。

例えば・・・



地下



崖の近くや山間部



浸水が始まってからの避難では手遅れ

◆**早めの避難が第一です！**避難につながる情報を入手し、早めに判断！逃げ遅れないようにしましょう。
◆ただし、浸水がすでに生じている場合は、流れがたとえ緩やかであっても、0.5m以上の水深があると大人でも歩行が困難になるというデータがあります。むやみに指定緊急避難場所を目指すのではなく、垂直避難を選ぶなど、柔軟な対応が必要になります。
◆車での避難は危険です。渋滞が発生し水防車両等緊急車両の通行の妨げになるほか、浸水により車が動かなくなり、立ち往生して命を落とす例が多発しています。

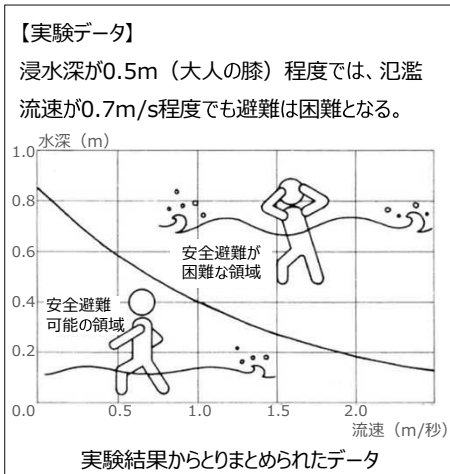
【過去の災害における「避難判断を誤ったことによる被害例」】

◆東海豪雨、新潟・福島豪雨、平成27年9月関東・東北豪雨など：
豪雨災害時に、ゴムボートなどで救助されて方々が避難したときの浸水深は、膝の高さ以上でした。
◆**関川水害**：
関川水害（平成7年）における調査結果によれば、浸水深が膝の高さ（0.5m）以上になると、ほとんどの人が移動困難でした。



北海道（平成28年9月）

膝の高さ程度での水深時の人命救助



◆田んぼを見に出かけた70代男性が、乗っていた軽トラックごと流されました。水深は、ガードレールとほぼ同じ高さに水面があることから、0.5～0.6mと推算されます。

◆避難勧告が出され、膝まで浸水した状態で、家から一直線の道路脇に位置する指定緊急避難場所へ向かっていた家族が、その道脇にある水路に飲み込まれ、流されました。



福岡県柳川市（矢部川水系矢部川）

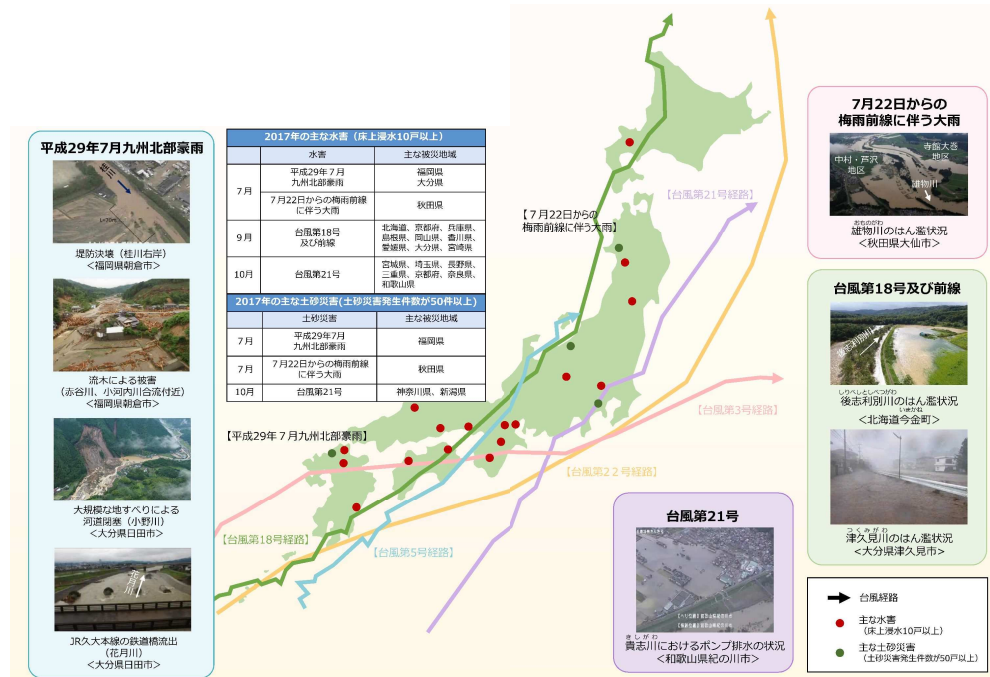
なぜ早めの避難が大事なの？

- 河川から氾濫した水はひどく濁っていて透明ではありません。浸水していると、足下にあるマンホールも段差も水路も分からないことがあり、非常に危険です！そのため、浸水が始まる前の避難が重要なんです。
- 垂直避難は最後の手段！浸水深は雨の状況や河川氾濫の発生場所等により異なります。場所によっては、屋根のはるか上まで浸水する可能性のある場所もあります。洪水浸水想定区域図や洪水ハザードマップで確認を！

たいふうしゅうらい ごうさいがい はっせい
台風襲来、豪雨災害の発生

ごうさいがい はっせい
【豪雨災害の発生】

◆近年各地で短時間の局地的な豪雨が増加しており、それに伴う水害も多く発生しています。



出典：『水害レポート2017』（平成29年12月、国土交通省水管理・国土保全局）

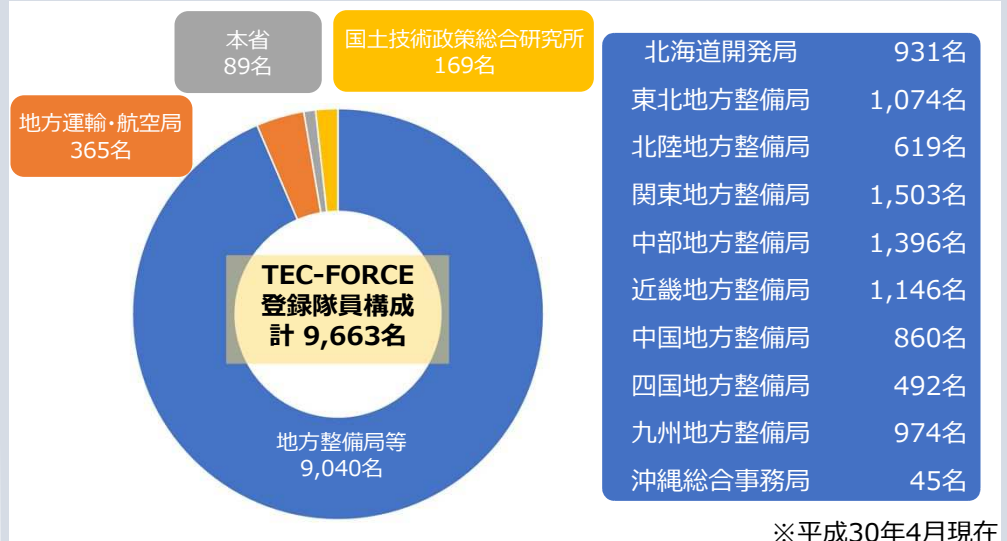
TEC-FORCE

こくどうつうしょう たいさく
【国土交通省の対策チーム】

◆災害発生直後から緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を派遣し、被害状況調査や被害拡大防止などの技術的な支援を実施しています。

テック フォース
【TEC-FORCEとは】

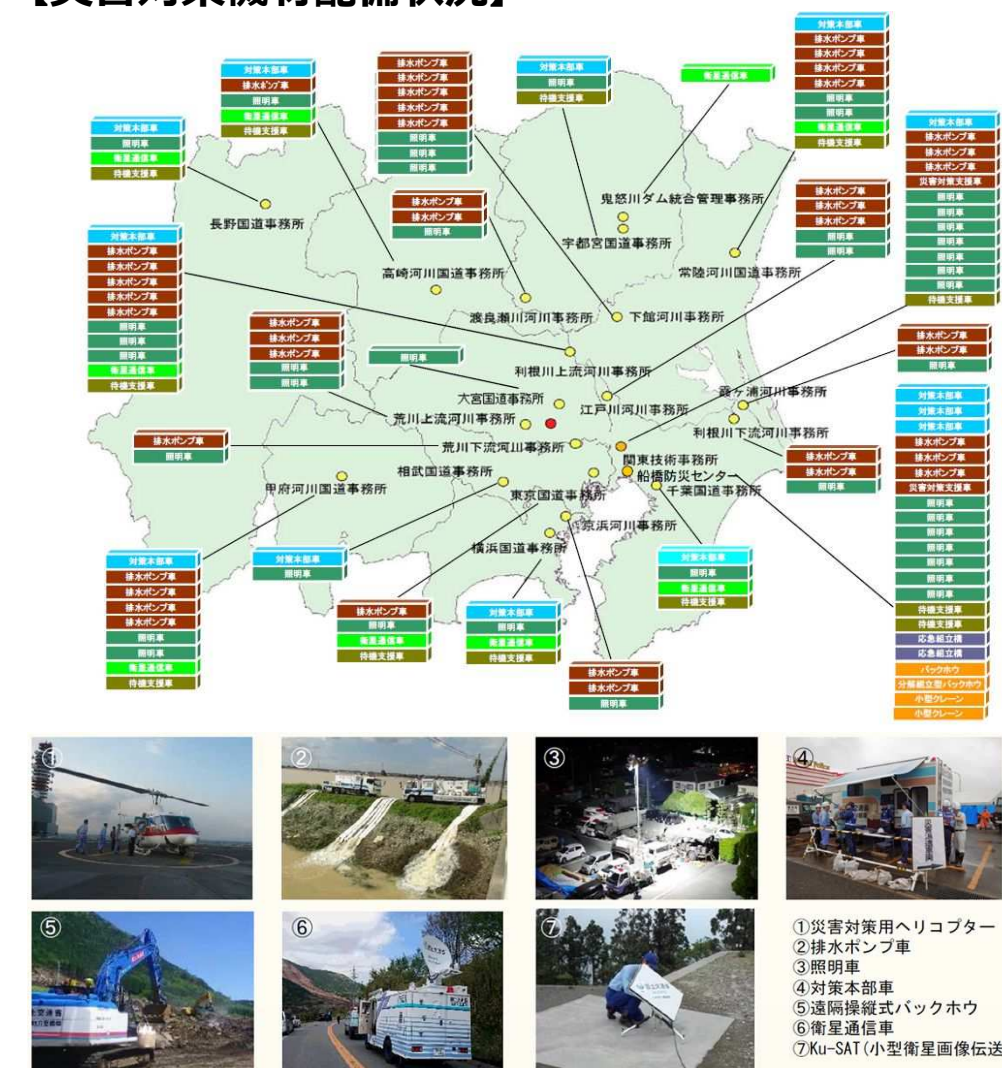
◆緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）は、大規模な自然災害等に際し、被災状況の迅速な把握、被害拡大の防止、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を実施する国土交通省各組織の職員で構成されています。



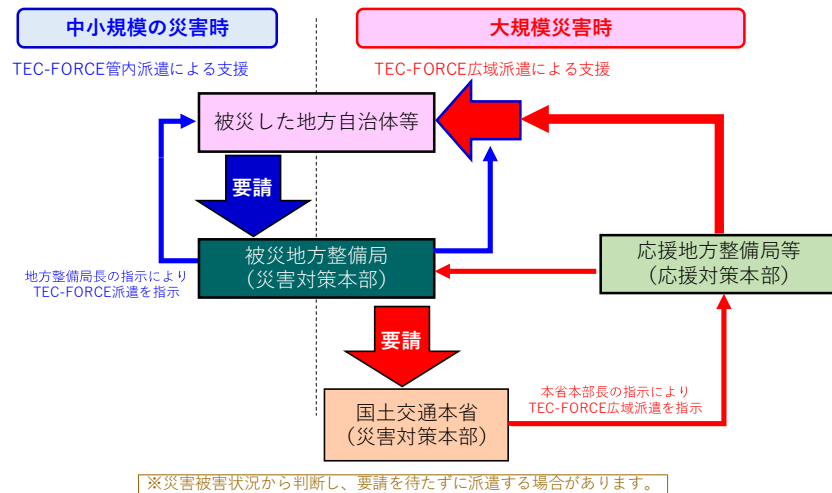
がいよう
TEC-FORCEの概要

さいがいたいさくきざい はいびじょうきよう
【災害対策機材配備状況】

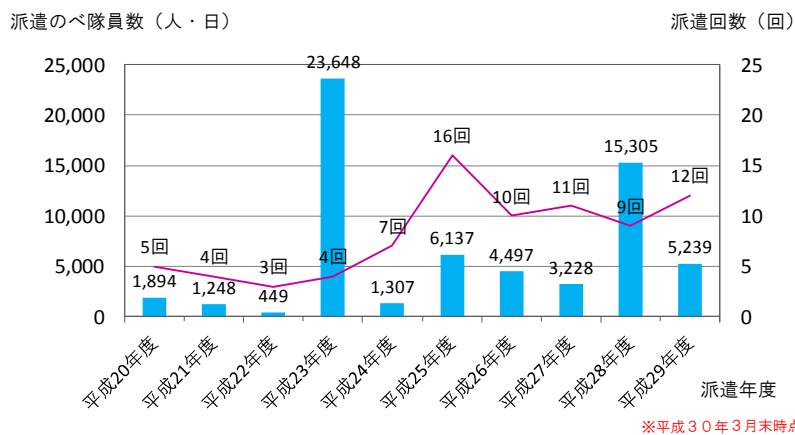
平成30年4月現在



さいがいきほ おう しえん しく
【災害規模に応じた支援の仕組み】



はけんじつせき
【TEC-FORCEの派遣実績】



さいがいじ きょうりょくたいせい
災害時の協力体制

さいがいきょうていぎしや かつどうしやかい
【災害協定業者の活動紹介】

◆関東地方整備局では、災害が発生した場合または発生する恐れがある場合に行う災害対策に関し、被害の拡大防止と被災施設の早期復旧に資することを目的として建設関係団体や関係機関と協定を締結しています。協定の内容は緊急工事のほか、応急対策のための緊急調査、応急対策資機材の調達、重機や災害対策機械の派遣、燃料の提供や運搬、車両の移動など多岐にわたります。



災害協定を締結している建設会社とTEC-FORCEが連携した市街地の土砂撤去（平成26年8月広島土砂災害）

ぼうさい かつどうしやかい
【防災エキスパートの活動紹介】

◆防災エキスパートは、大規模災害発生時に自発的に、もしくは国土交通省や地方自治体等の要請を受けた防災エキスパート事務局からの連絡により、指定の場所に参集するなどして、災害対策支援（被災状況調査や連絡業務支援など公共機関からの要請に応じた多岐にわたる活動）を行います。



道路の被災状況の調査（平成23年東日本大震災）

ぎじゅつてきしえん いちれい
TEC-FORCEによる技術的支援の一例

◆TEC-FORCEは全国各地で災害支援等を行い、被害の軽減と早期の復旧に貢献しています。

へいせい ねん たいふうだい ごうとう いちれん たいふう
【平成28年台風第10号等一連の台風】



河川・道路の被災状況調査
(岩手県岩泉町)



24時間体制で緊急排水を実施
(北海道名寄市)



土砂災害の被災状況調査
(岩手県岩泉町)



避難所を照らす照明車
(岩手県岩泉町)



緊急通行路のための道路復旧
(岩手県岩泉町)



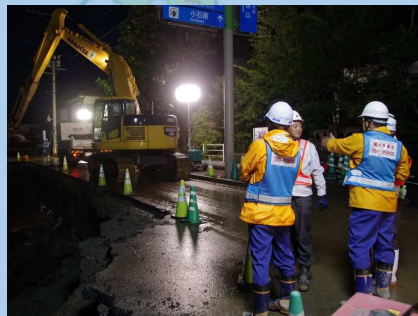
緊急通行路のための道路復旧
(岩手県岩泉町)

TEC-FORCE活動範囲

へいせい ねん がつ きゅうしゅうほくぶごう
【平成29年7月九州北部豪雨】



ドローンを活用した被災状況調査
(福岡県 赤谷川)



道路啓開活動



橋梁の被災状況調査



関係機関への技術的助言

へいせい ねん がつ ひがしにほんだいしんさい
【平成23年3月東日本大震災】



排水ポンプ車による浸水エリアの排水
(宮城県名取市)



衛星通信車による
途絶した通信回線の確保
(岩手県大船渡市役所)



市町村の片腕となる
職員を派遣し技術的支援を実施
(岩手県大槌町)

へいせい ねん がつ かんとう とうほくごう
【平成27年9月関東・東北豪雨】



空撮による浸水状況調査
(茨城県 鬼怒川)



小学校周辺の緊急排水
(茨城県 鬼怒川)



災害協力業者への活動指示
(茨城県 鬼怒川)



浸水区域の被災状況調査
(茨城県 鬼怒川)



報道関係者に排水状況を説明
(宮城県 渋井川)



町道の被災状況調査
(福島県 南会津町)

ビジョンの理念

鳥・神流川流域で発生し得る大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロ」や「社会経済被害の最小化」を目標として定め、平成32年度までに各構成員が連携して取り組み「水防災意識社会」の再構築を行う。

鳥・神流川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会

大規模水害：想定し得る最大規模降雨に伴う洪水氾濫による被害
逃げ遅れ：立退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態
社会経済被害の最小化：大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に再開できる状態

【目標達成に向けた3本柱】

- ①円滑かつ迅速な避難行動のための取組
- ②洪水氾濫による被害の軽減および避難時間の確保のための水防活動等の取組
- ③一刻も早い生活再建および社会経済活動の回復を可能とするための排水活動および施設運用強化の取組

ビジョンに基づくさまざまな取組

ハード対策
■洪水を安全に流すための対策
■危機管理型ハード対策
■避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備
ソフト対策
1. 円滑かつ迅速な避難行動のための取組
■情報伝達、避難計画等に関する取組
■平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する取組
2. 洪水氾濫による被害の軽減及び避難時間の確保のための水防活動等の取組
■水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組
3. 一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とする排水活動及び施設運用強化の取組
■排水活動及び施設運用の強化に関する取組

その他のさまざまな取組はこちら



水防災意識社会再構築ビジョンに対する
高崎河川国道事務所の取組
(高崎河川国道事務所Webサイト)



■取組の一例

- ➡ 取組例①「水位計やライブカメラの情報をリアルタイムで提供」
- ➡ 取組例②「水防災に関する説明会の開催」
- ➡ 取組例③「関係機関と連携した水防訓練の実施」
- ➡ 取組例④「緊急排水計画（案）に基づく排水実働訓練の実施」

【取組例①～いかに効果的な情報提供を行えるか～】

◆河川の画像データを常時閲覧可能とすることで、住民が河川氾濫の危険性を自ら把握し、川を見に行くなどの危険な行動を回避するとともに、主体的な避難を判断できるよう取り組んでいます。



2013年9月16日台風18号襲来時の
ライブカメラ映像



平常時の映像

【取組例②～いかに水害への関心を高められるか～】

◆地域の皆さんの要望に応じて、国交省職員や市町職員等が講師となり、学習会や地域の集まり、学校の授業の一環などに出向いて説明会や講演を行い、水防災意識の向上や防災意識の高揚を図っています。



出前講座の様子
(2017.6.7)



出前講座の様子
(2017.11.20)



講演会の様子
(2017.10.11)

【取組例③～いかに適切な水防活動が行えるようにするか～】

◆消防団（水防団）および消防関係機関合同の水防訓練を行い、水防技術の向上を図ることを目的とした取組を実施しています。



ロープワークの様子



土のうづくりの様子



改良積み土のう工法
の様子

【取組例④～いかに早期に浸水を解消できるか～】

◆大規模水害に備え、排水ポンプ車による排水作業を迅速に行えるよう、事務所職員、自治体職員および維持業者を対象とした緊急排水計画（案）に基づく排水実働訓練を実施しています。



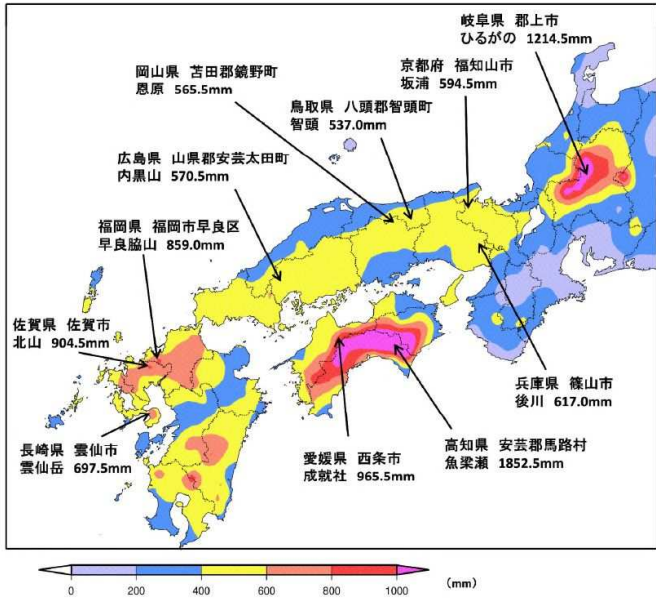
「平成29年度鳥・神流川緊急排水計画（案）に基づく排水実働訓練」の様子



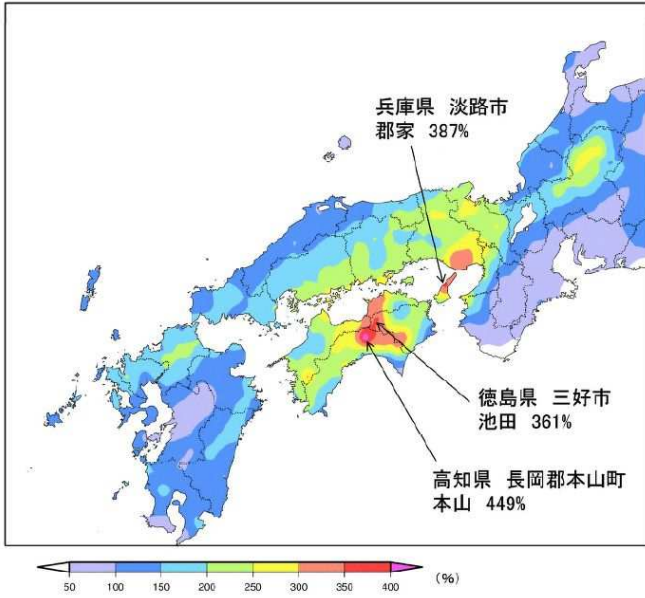
降雨状況

◆6月28日以降、梅雨前線の停滞や台風第7号の影響により、西日本から東海地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となりました。

6月28日～7月8日までの期間降水量は、四国地方で1,800ミリ、東海地方で1,200ミリ、九州北部地方で900ミリ、近畿地方で600ミリ、中国地方で500ミリを超えるなど、7月の月降水量平年値の2～4倍となる大雨となったところがありました。



期間降水量分布図
(6月28日0時～7月8日24時)



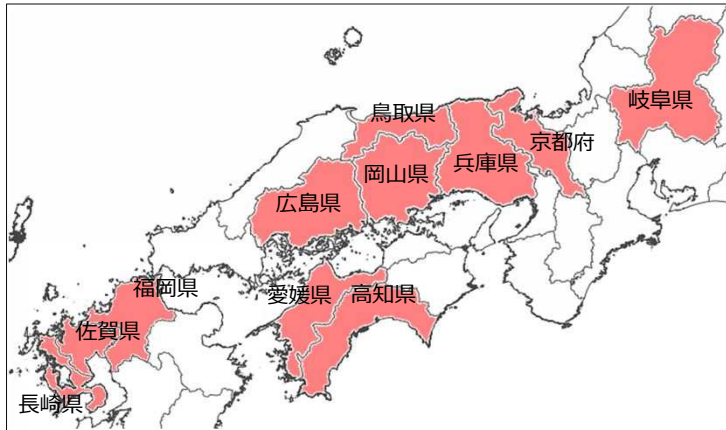
期間降水量と平年値(7月)との比較図
(6月28日0時～7月8日24時)

【特別警報の状況】

◆「特別警報」は、大雨警報の発表基準をはるかに超える大雨が予想され、重大な災害の起こるおそれ著しく高まっている場合に発表されます。

発表された地域は、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況にあります。市町村の避難情報にすみやかに従うといった、適切な行動をとることが重要です。

◆「平成30年7月豪雨」では、11府県に大雨の「特別警報」が発表されました。



特別警報の発表府県

被害状況

◆人的被害(9月3日時点)
死者 : 221名(14府県)
行方不明者 : 9名(2県)
◆避難状況 7月8日時点 9月3日時点
都道府県 : 20府県 → 6府県
避難所数 : 3,238箇所 → 98箇所
避難者数 : 30,250名 → 1,541名

◆建物被害(9月3日時点)
全壊 : 6,296棟(16府県)
半壊 : 10,505棟(14府県)
床上浸水 : 8,937棟(21道府県)
床下浸水 : 20,506棟(29道府県)

高梁川水系小田川(岡山県倉敷市)の被害状況
・左岸および複数の支川の決壊、右岸の越水により、多数の建物が浸水しました。(約1,200ha、約4,100戸)(7月7日)
・7月8日からのTEC-FORCEの排水ポンプ車による排水支援により、浸水は7月11日には概ね解消しました。
・堤防決壊2箇所および法崩れ1箇所にて、緊急復旧を実施し、7月15日に堤防締切盛土の施工が完了しました。



○国管理河川の主な被災箇所

No.	水系	主な河川	主な地町村
1	由良川	由良川	京都府福知山市
2	江の川	江の川	鳥根県江津市
3	江の川	馬洗川	広島県三次市
4	高梁川	小田川	岡山県倉敷市
5	芦田川	芦田川	広島県福山市
6	太田川	三條川	広島県広島市
7	肱川	肱川	愛媛県大洲市
8	遠賀川	遠賀川	福岡県飯塚市
9	筑後川	巨瀬川	福岡県久留米市
10	六角川	武雄川	佐賀県武雄市

○府県管理河川の主な被災箇所

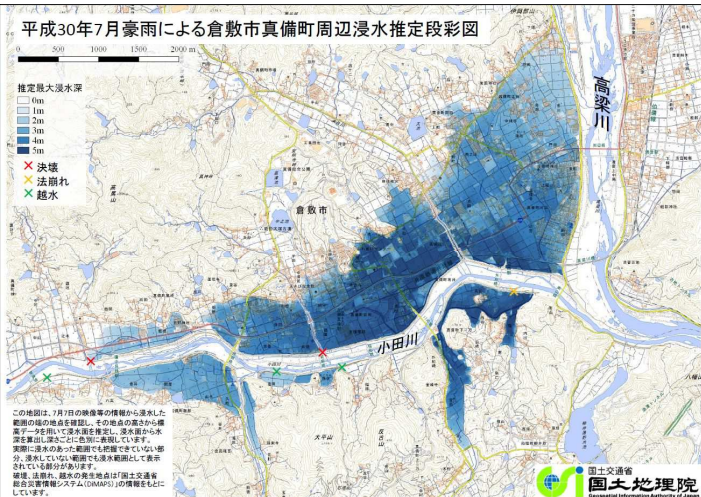
No.	水系	主な河川	主な地町村
1	木曾川	津保川	岐阜県関市
2	由良川	豊川	京都府綾部市
3	高野川	高野川	京都府舞鶴市
4	旭川	旭川	岡山県岡山市
5	旭川	砂川	岡山県岡山市
6	高梁川	高梁川	岡山県総社市
7	高梁川	小田川	岡山県矢野町
8	芦田川	福川	広島県福山市
9	手城川	手城川	広島県福山市
10	芦田川	御瀬川	広島県府中市
11	太田川	矢口川	広島県広島市
12	太田川	府中大川	広島県広島市
13	太田川	瀬川	広島県府中町
14	総瀬川	総瀬川	広島県坂町
15	瀬野川	瀬野川	広島県広島市
16	矢野川	矢野川	広島県広島市
17	西野川	西野川	広島県三原市
18	沼田川	沼田川	広島県三原市
19	野呂川	中畑川	広島県呉市
20	島田川	島田川	山口県周南市、光市
21	肘川	肘川	愛媛県大洲市、西予市
22	渡川	広見川	愛媛県松野町、鬼北町
23	安芸川	安芸川	高知県安芸市
24	松田川	松田川	高知県宿毛市
25	筑後川	山ノ井川	福岡県大木町
26	筑後川	大刀洗川	福岡県大刀洗町

逃げ遅れに伴う教訓

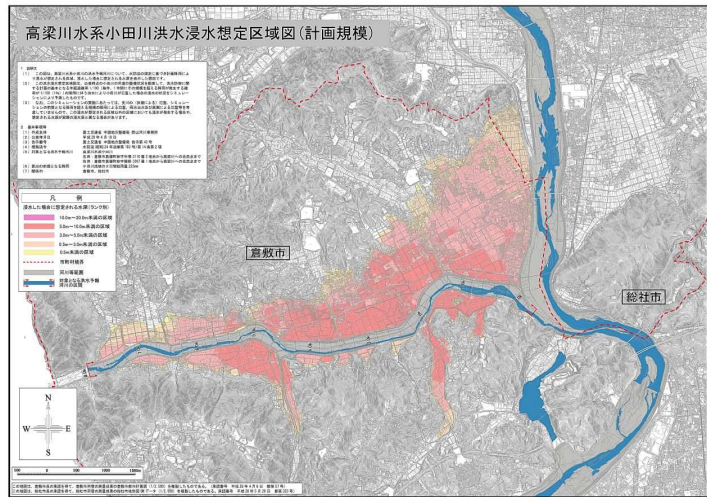
【想定されていた浸水範囲】

◆「平成30年7月豪雨」により甚大な被害を受けた岡山県倉敷市真備町ですが、洪水における浸水範囲は、公表されている洪水浸水想定区域とほぼ一致していました。しかしながら大雨による浸水が想定されていたにもかかわらず、逃げ遅れてしまった人が大勢いました。

あらためて、自分が住んでいる地域の洪水浸水想定区域図やハザードマップを確認して、もしものときの行動をスムーズに行えるよう備えることが大切です。



平成30年7月豪雨における浸水範囲
(実績からの推定)



高梁川水系小田川における洪水浸水想定区域図(計画規模)
(平成29年公表)

平成30年7月豪雨におけるTEC-FORCEの活動

パネル10

TEC-FORCEの活動

【派遣・出発式】

◆災害発生の翌日には、隊員が被災地へ派遣され、応急対策や現地調査、派遣先への技術的助言等を行うことで被災地の自治体を支援しました。



【応急対策例】

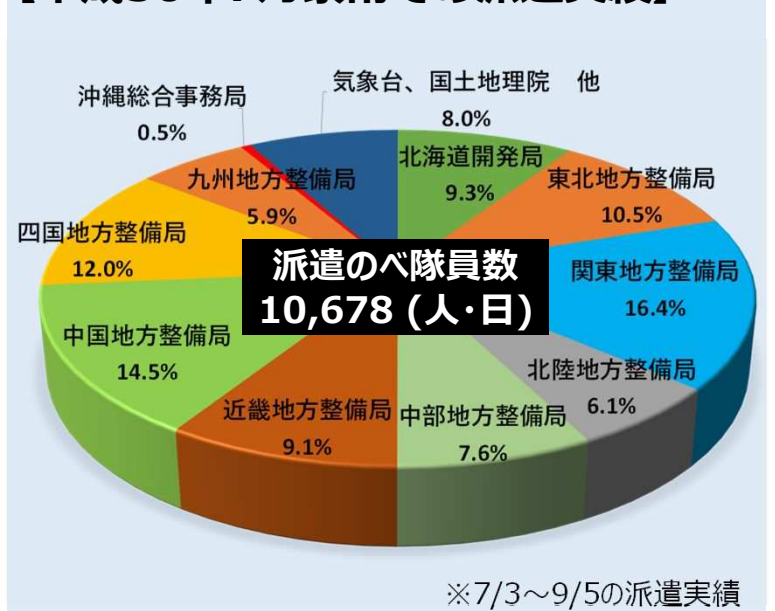


【現地調査】

◆被災状況を迅速に把握するために、現地調査や、地域住民の方への聞き取りを実施しました。また、衛星通信設備の設置により、被災状況の映像をリアルタイムに配信することで、貴重なデータを入手できる環境を整えました。



【平成30年7月豪雨での派遣実績】



【技術的助言】

◆被災地での二次災害の発生防止や早期の災害復旧のために、派遣先の自治体へ技術的な助言を行いました。



【成果報告】

◆被災地の災害復旧のための調査結果をとりまとめ、派遣先の自治体へ報告しました。



TEC-FORCEの報告を踏まえて、自治体による災害復旧と対策が行われます。

自治体による災害復旧・対策の一例

◆「平成30年7月豪雨」の被災地においては、TEC-FORCEの報告を踏まえて災害復旧や今後の防災・減災対策に向けた様々な取組が行われます。過去の災害における対応事例を紹介します。

【平成26年8月豪雨（広島県 広島市）】

◆ハード対策の事例：

平成26年8月豪雨では、大雨の影響により土石流災害が発生し、死傷者がでました。土砂災害の再度の発生を防止するため、砂防堰堤を整備しました。

これらの砂防堰堤は「平成30年7月豪雨」における被害の軽減に役立ちました。



【平成27年9月関東・東北豪雨（茨城県 常総市）】

◆ソフト対策の事例：

常総市では、鬼怒川の決壊に伴う水害の経験を踏まえ、災害時に迅速かつ確かな避難行動をとることで犠牲者ゼロを目指す「みんなでタイムラインプロジェクト」を実施し、地域住民の防災意識を高める活動を行っています。

